

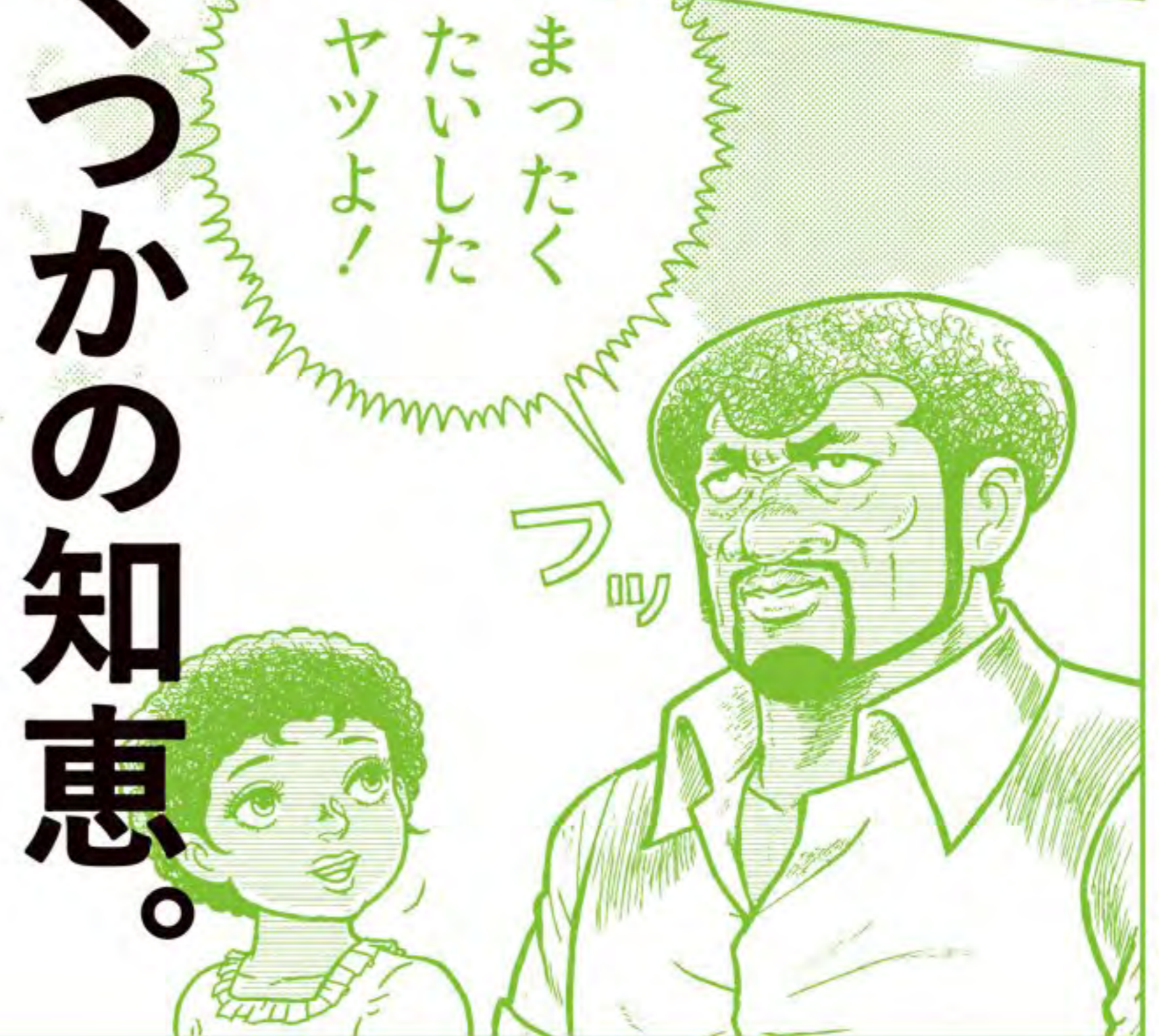
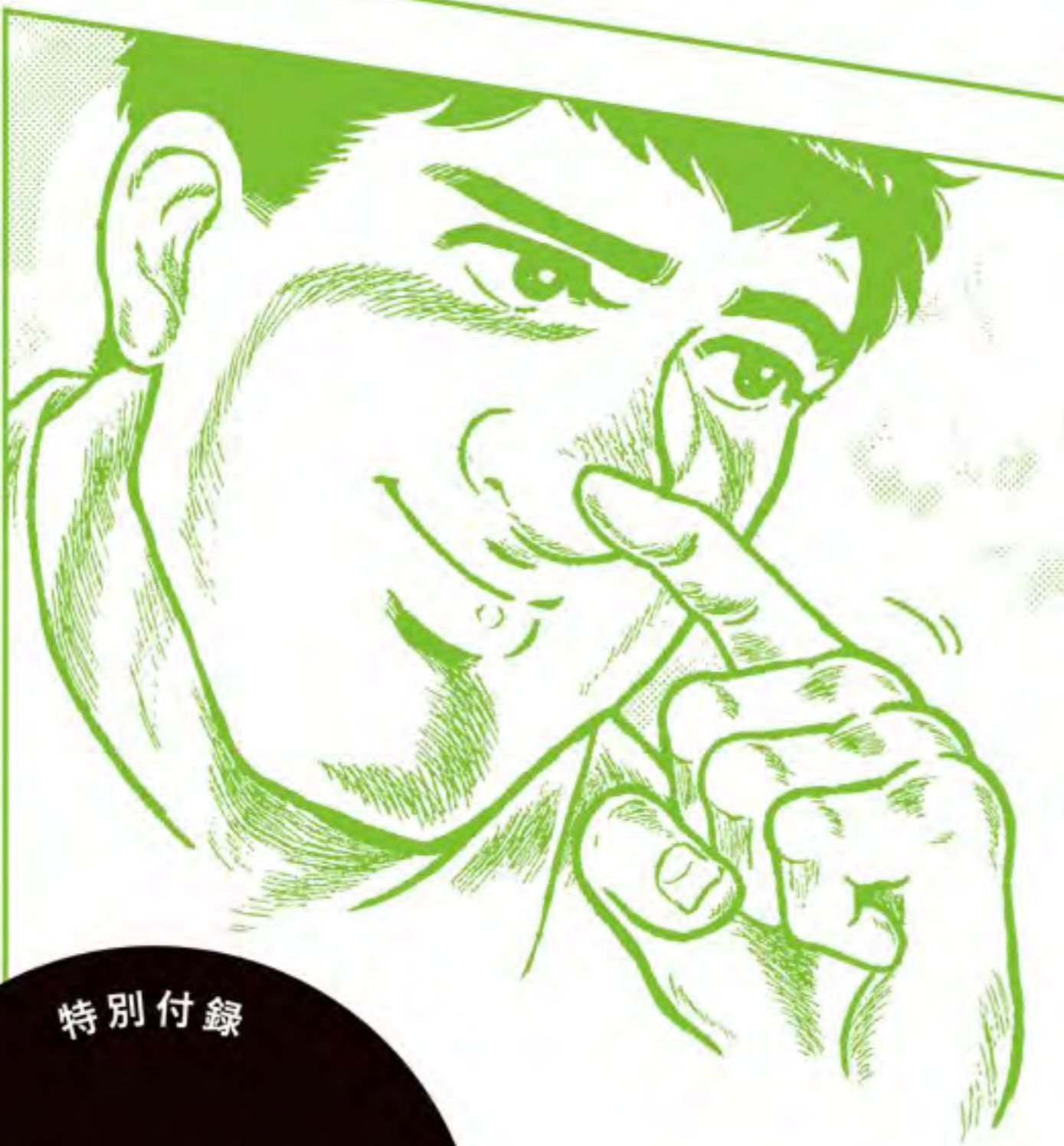
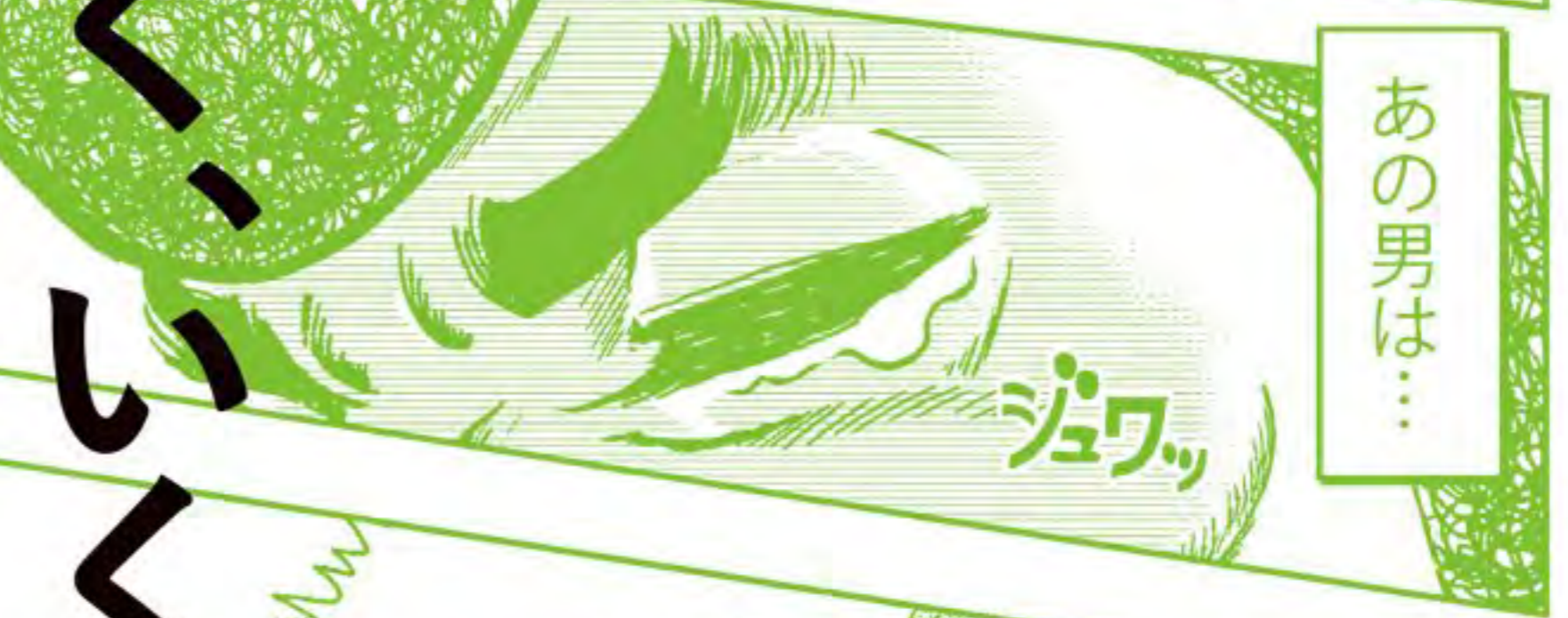
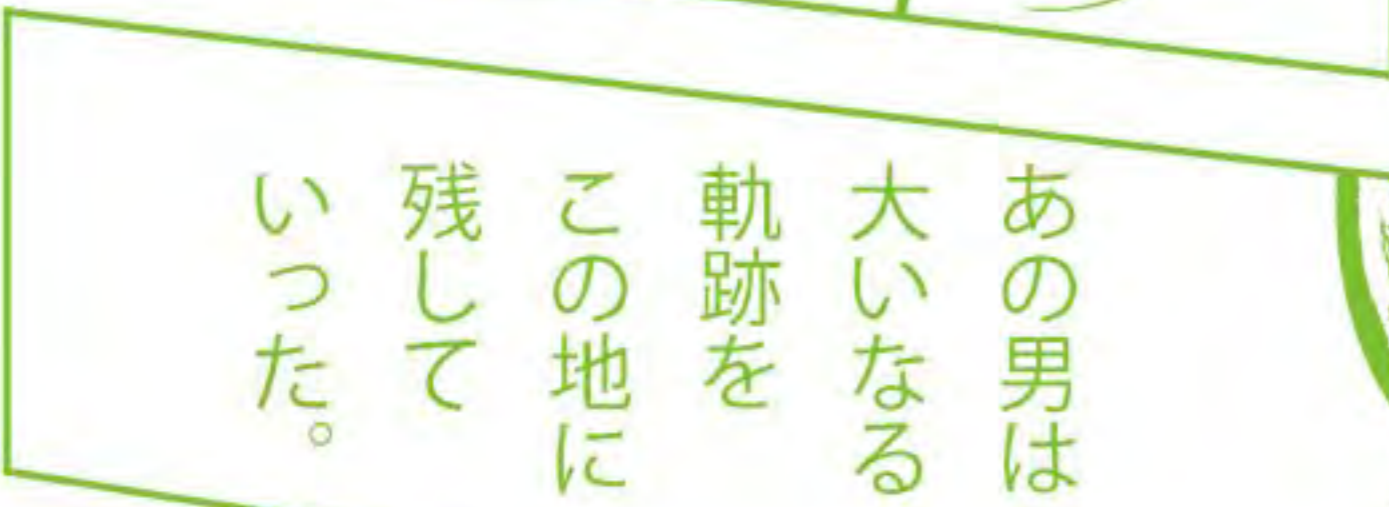
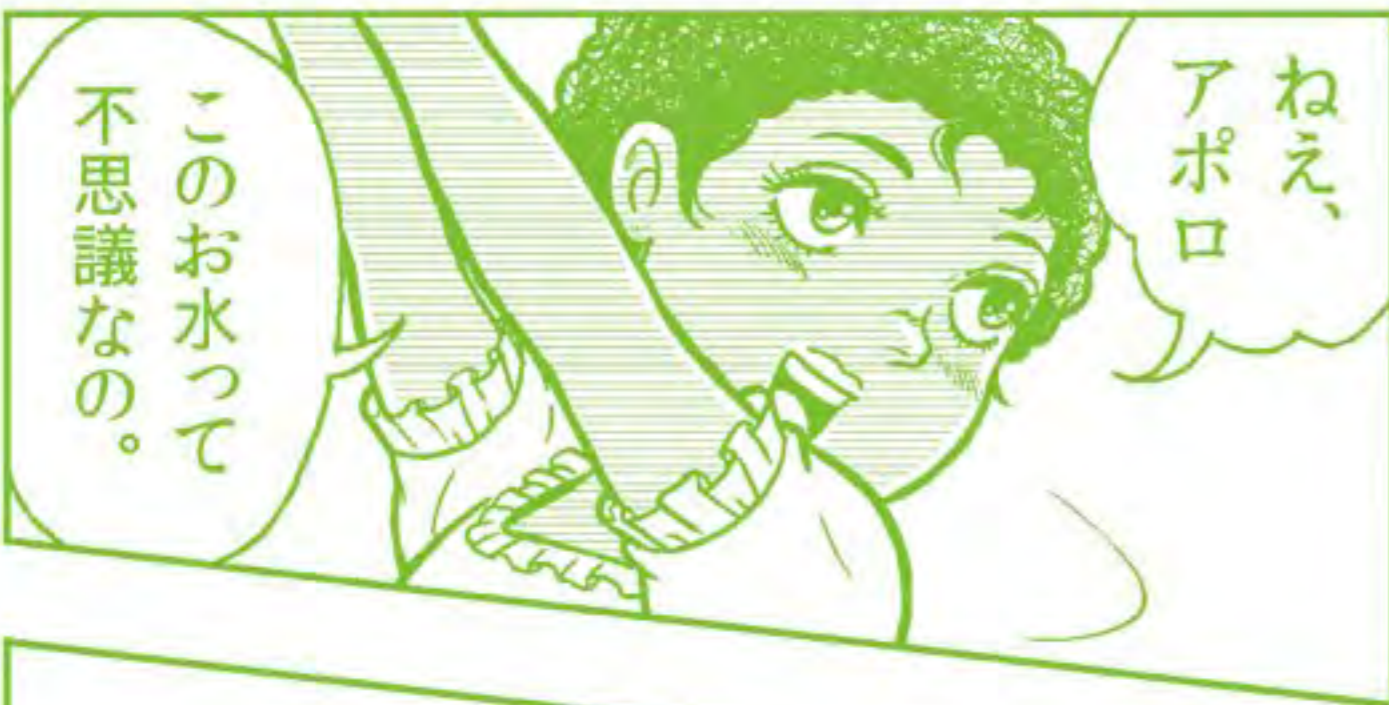
あたらしい仕事と、ぼくらの未来。

# BRITUS

®



## 世界で生き抜く、いくつかの知恵。



特別付録  
**国際協力**  
ってなんだろう? ハンドブック

2014 10/15 特別定価 650円

経済的に急成長を遂げているといわれるフィリピン。しかしその恩恵は一部の富裕層だけが享受し、貧困層の数は依然減る様子がないという。いまだ厳しい暮らしを強いられている子供たちの未来を切り拓くべく、その支援活動を行っているのが横田宗さん。彼のもとを、幼少期をインドで過ごした経験を持つ平井理央さんが訪れた。

**横** 田宗さんとフィリピンの関係は、高校時代に始まる。

1993年、当時高校3年生だった横田さんは、偶然、ピナトウボ火山の噴火で被災したフィリピンのルソン島カステイリヤホス町に位置する、ジャイラホームという名の孤児院の存在を知る。そのジャイラホームを単身訪れ、復興の手助けをするべく1ヵ月ほど滞在した横田さんは、思いがけず現地の人たちから手厚くもてなされたという。帰国するや彼は、その恩に報いることを心に誓い、支援団体ACTIIONを立ち上げる。

ACTIIONは2002年にNPO法人化し、現在では、首都マニラが位置するルソン島にある39の児童福祉施設と提携。年間150人ほどの学生ボランティアを送り込むほか、独自の教育プログラムである「チカラプロジェクト」の提供や職員研修を行っている。「僕たちが関わっているのは、主に児童養護施設、盲・ろう学校、児童自立支援施設、性的虐待の被害女子のためのシェルター、といった場所にいる子供たちです。僕

自身は今、好きなことをさせてもらっていますが、それって、たまたま日本に生まれたからでもあると思うんです。逆に途上国の貧困層に生まれた子供たちは、たとえば才能を持っていたとしても、それを生かす機会が一生訪れない場合もある。それは不公平でもあるし、個人にとっても国にとっても、非常に大きな損失だと思っんです」

そこで横田さんが積極的にやっているのが、「チカラプロジェクト」と銘打った情操教育のプログラムだ。具体的には、美容師の育成を目指した「ハサミノチカラ」、子供たちのストレスを発散し、同時に礼節や規律的行動を体感させる「カラテノチカラ」、カラダを動かす中で集団行動の尊さを教える「フットサルノチカラ」や「ダンスノチカラ」、そして、100の職業に就く100人へのインタビューと奨学金ガイドを併記した本を出版し、フィリピン全国の公立学校4万5000校へ寄贈する「ホンノチカラ」の5つである。

さらには教育に留まらず、社会に出てからの配慮も必要だと語る。「フィリピンの銀行って、借入金の年利が12%と非常に高いんです。つまり、アイデアがあったとしても、元手がなかなかなか起業することができません。だからいずれ、フィリピン版『マネーの虎』をやってみたいなと考えています」果たして横田さんの活動は、平井理央さんの目にどう映ったのか。2日間の同行取材を終えた平井さんのインタビューが、始まった。

# PHILIPPINES

20年間にわたり、異国の地フィリピンで子供たちを支える、ひとりの男。独自のボランティア観に駆り立てられ行動し続ける、横田宗さん38歳の“発動力”。



- 首都：マニラ ●面積：299,404km<sup>2</sup>
- 人口：1億767万人（2014年時点） ●公用語：タガログ語、英語
- 観光：セブ島、ボラカイ島などのビーチが有名。コルソン・リニエラの樹木群は世界遺産
- 歴史：1521年のマゼラン船以来、スペインと米国の植民地時代が続く。1946年に独立
- 経済：20%の成長を誇るアジア。総GDP40%以上が1日2ドル未満で暮らす貧困層



はたまたま  
横田宗



金に来た人  
平井理央



photo/Teruya Ito  
text/Tomohari Uotani

横田さんの尽力により2001年にジャイラホーム敷地内に完成した、養育施設「フィリピン・カステイリヤホス」の建て替え工事が完了。その際の現場と合わせて50名の児童生が所属する。

ボランティアは奉仕ではなく恩返し。そう考えれば、違う世界が見えてくる。

平井理央 髪形が素敵ですね。シルバリーに紫が交ざっています？  
横田宗 はい。フィリピンで一番有名な美容師にお願いしています。ハサミノチカラをやっていることもあって、こちらの美容師さんとは付き合いが深いんです。カラーリングの実験台にされているので、行くたびに違う色に染められるのは勘弁してほしいのですが。  
平井 あはは(笑)。ハサミノチカラでは、日本からも美容師さんがいらっしやるんですよね。  
横田 日本からは毎年、20人くらいの美容師さんが来てくれます。彼らは子供たちの髪を切ってくれているのですが、子供たちは僕の髪形にしたがるんです。さすがにカラーリングはできませんが。

平井 海外から来た人に髪を切ってもらうだけでも、子供たちにとっては一大イベントでしょうね。  
横田 そうなんです。学生ボランティアにも、いつも言っているんです。「子供たちと遊んでくれるだけでいい」って。つらい思いをしたり、何かしらの事情があつて施設に来ている子たちばかりだから、そうやって非日常的な楽しい体験をするだけでも、すごく意味があることだと思っています。  
富裕層と貧困層には、現状、越えられない壁が存在する。

平井 今回はマニラやオロンゴボ、スービックの街並みを拝見しましたが、開発が進んでいるエリアとそうではないエリアの差が、思いのほかくっきりとあることに驚きました。フィリピンは急成長しているって聞いていましたが、その恩恵があまりに行き渡らない背景に、何が原因なのでしょう？  
横田 多くの富裕層にとって、貧困問題はなきに等しい事柄なんです。そもそも言葉自体、中間層以上は英語ですが、貧困層はタガログ語しか話しませんので、観るテレビ番組も新聞も全然違うんです。そういった意味では、一つの国の中に先進国と途上国が存在する感じだと捉えてください。  
平井 私は子供の頃、インドのムンバイに住んでいたんです。家は外国人居住区にあつたので、とても過ごしやすい環境だったのですが、学校のすぐ横にはスラム街があつたりして、ものすごい衝撃を受けました。だから、一国の中に「先進国」と「途上国」が存在するという状況は、何となく想像がつきます。そしてそういう状況だと、子供たちが「壁」を越えるのが非常に困難だということも、想像に難くないですね……。

HAJIME YOKOTA  
生年月日：1976年3月20日  
出身：東京都八王子市  
肩書：NPO法人ACTION代表  
経歴：17歳/高校3年生時にジャイラホームの存在を知り、単身で訪問。18歳/亜細亜大学在学中にACTION設立。在学中はフィリピンのほか、インドやルーマニアの孤児院で活動、さらにはルワンダ、ケニア、ウガンダ等で被災孤児支援等の活動を実施。23歳/フィリピンと日本に事務局を開設。34歳/エコミスマを設立。

横田宗さんの、ある一日。

- 07:00 起床。
- 09:00 オロンガボの事務所に着。夕方までスタッフから報告を受けたり近郊の児童施設を視察。マラボンにあるエコミスマの事務所へ行き、「お母さん」たちと商品開発の打ち合わせ。ちなみに、マラボンと自宅のケンソンとは同じマニラ市内にもかかわらず往復2時間の渋滞。
- 13:00 2時間ほど、子供を相手に空手の稽古。マニラの支援者たちと食事をしたり、新聞社と「ホンノチカラ」の打ち合わせ。
- 16:00 自宅へ戻り、デスクワーク。
- 22:00 就寝。
- 01:00

横田 もちろん貧困層の子供たちも学校へ行っていますが、先生も教室の数も足りないんです。一つの学校で朝と午後といった2〜3交代制になっている学校が多いんです。そんな状況なので、授業をこなすだけで精一杯で、部活もなければ合唱コンクールのような催し物もありません。その結果、感情のコントロールとか論理的な考え方が、あるいは集団で何かを成し遂げる達成感といった、社会性を身につけずに大人になってしまう人が多いいんです。その点、富裕層は私立の学校に行きますから、ますます格差が開いてしまうわけ……。

横田宗さんの3つの知恵。  
● 事前に情報収集をしない。考えるより先に動く。  
● 実現するまで、常にアイデアを発信し続ける。  
● 好きでやっているのだから、嫌だとは思わない。

平井 ダンスや空手といったチカラプロジェクトを行っているのは、その点を補うためなんです。横田 そうなんです。空手の場合、3分の1は話をしていきます。いろいろな国の話とか、なぜこの活動をしているのかとか。あとは寝つ転がって瞑想をさせています。そうでもないかと、深呼吸をしてリラックスして考える機会なんて、彼らにはありません。「貧しいなら学校に行かせればいいんでしょ？」という単純な話でもないんです。

横田 はい。特定のお菓子のお菓子袋を12枚3ペソ(約7円)で買っていくので、挫折する人たちもいました。今残っている10人ほどのお母さんたちは、それでも頑張り続けてくれた人たちです。今のところ製品は日本だけで流通していますが、これからは欧米でも販売していきたいと思っています。  
平井 活動領域がどんどん広がっている印象ですが、一体、どのようにして複数のプロジェクトを進めているんですか？

横田 あまり事前にリサーチをせず、まずは行動してしまうんです。問題が起きたらそれから考えればいいやと。あとは基本、他人頼みです。ある企画をやりたいと思つたら、人に会うたびにそのアイデアを言い続けるんです。例えば、日本の美容師さんに来てもらいたいと思つたのは2001年頃です。

平井 子供たちへの支援だけではなく、お母さんたちを対象にした「エコミスマ」というプロジェクトも行っていきますよね。これは、どういうきっかけでスタートしたプロジェクトなのでしょう？  
横田 僕は児童養護施設を支援しているわけですが、そういった施設がない社会こそが理想ですよね。でも、実情はそうはいきません。ならばせめて施設に来る子供たちの数を減らすべく、少しでも貧困を減らしていく方法を考えています。結果、仕事が見つから

横田 あまり事前にリサーチをせず、まずは行動してしまうんです。問題が起きたらそれから考えればいいやと。あとは基本、他人頼みです。ある企画をやりたいと思つたら、人に会うたびにそのアイデアを言い続けるんです。例えば、日本の美容師さんに来てもらいたいと思つたのは2001年頃です。

横田 あまり事前にリサーチをせず、まずは行動してしまうんです。問題が起きたらそれから考えればいいやと。あとは基本、他人頼みです。ある企画をやりたいと思つたら、人に会うたびにそのアイデアを言い続けるんです。例えば、日本の美容師さんに来てもらいたいと思つたのは2001年頃です。



対談のお供は、鶏を醤油と酢とニンニクを使って煮込んだ、アドボという典型的なフィリピンの家庭料理。

横田 あまり事前にリサーチをせず、まずは行動してしまうんです。問題が起きたらそれから考えればいいやと。あとは基本、他人頼みです。ある企画をやりたいと思つたら、人に会うたびにそのアイデアを言い続けるんです。例えば、日本の美容師さんに来てもらいたいと思つたのは2001年頃です。

横田 あまり事前にリサーチをせず、まずは行動してしまうんです。問題が起きたらそれから考えればいいやと。あとは基本、他人頼みです。ある企画をやりたいと思つたら、人に会うたびにそのアイデアを言い続けるんです。例えば、日本の美容師さんに来てもらいたいと思つたのは2001年頃です。

## 子供の未来に可能性をもたらす、横田宗さんの代表的な活動の場。

横田さんの活動の出発点となったジャイラホームを含む39の児童福祉施設に対し、ACTIONは、チカラプロジェクトの提供や学生ボランティアの手配、さらには社会福祉開発省と共同で施設職員の研修などを行っている。一方エコミスマでは、貧困層の女性に職を提供するべく、菓子の袋を再利用した雑貨類の生産を行っている。

## JIREH HOME

ACTIONの活動を象徴する、笑顔溢れる場所。



左/ジャイラホームには26人の孤児が暮らす施設のほか、幼稚園から高校までが揃い、近隣の子供もやってくる。中上/ジャイラホームを運営するジョエル神父とは20年来の付き合い。右上/空手の稽古は週2回、2時間。中下/子供たちを学生ボランティアに紹介するボード。右下/かつては火山灰に覆われていたが、すっかり緑に。

## EcoMISMO

貧困問題を構造的に改革するための、母親支援。



左/菓子袋で作ったとは思えないデザインと質感に平井さんも感心。中/一つの菓子袋のいろいろな箇所を切り取って使うことで、さまざまなバリエーションが。右/子供が独立するまで働きたいと話す母親たち。

## CHIKARA PROJECT

子供たちに、未来への希望を与える「チカラ」。



左/「ハサミノチカラ」では、日本から美容師が来たことあって、みんな大騒ぎ。中/オロンガボ事務所併設の「チカラプロジェクトスタジオ」。右/「フットサルノチカラ」。プロの試合を真剣に見つめる子供たち。

## RIO HIRAI

1982年東京都生まれ。フリーアナウンサー。2005年フジテレビ入社、『すばると』等を担当。12年退社。横田さんについて「大胆で行動力がある人という印象でしたが、加えてしなやかな強さがあり、それが活躍の秘訣だと思いました」。

